

末期がんの俳優・斎藤歩さんの壮絶な舞台裏に密着 「生きる～俳優と妻の夜想曲～」制作スタッフ一同に社長賞 民放連賞“最優秀”など数々の賞を受賞

2026年1月5日（月）

本作は、治療しなければ余命半年と告げられた60歳の俳優・脚本家、斎藤歩さんが、がんとの闘病の中、苦しみながらも新しい芝居を作り上げるまでの壮絶な舞台裏に密着したドキュメンタリーです。「斎藤さんの病との闘い、最後に演出する舞台への思い、支える妻の葛藤を追ったカメラと構成は見る人の胸を打つ作品になっている」と評価され、日本民間放送連盟賞番組部門 テレビ教養番組で“最優秀”賞を受賞したほか、テレメンタリー2024最優秀賞など、数々の賞にも輝きました。長期の密着取材で、大切な人を思う夫婦のそれぞれの思いを描き、HTBの番組制作力の高さを示し、ブランドイメージを上げたスタッフ一同の功績を称え表彰します。

報道部・沼田博光さんコメント「40年前、北大の芝居で歩さんを初めて観た時、舞台で異様な存在感を放ち、どの場面でも目で追ったことを覚えています。卒業後も番組のナレーションを依頼するなど何度も接点がありました。この1年半密着して改めてその異能・鬼才ぶりを知り、また長い時間を共にすごしましたので、今は喪失感と寂しさに苛まれています。表彰は夫婦が前を向く力に皆が心を揺らされたからだと思います。スタッフを代表して御礼申し上げます。」



左から後藤雄也さん、滝本真実さん、沼田博光さん、寺内達郎社長